

# 帯への道

～帯の学び舎計画による西陣の復活～

400724 田杼 悟



15世紀中ごろ、応仁の乱（1467～1477）の際に、山名宗全が率いる西軍の陣地がおかれた事から、いつしか「西陣」という呼び名が定着したと言われている。

織物自体は、今から約1200年前の平安京に設けられた織部司（朝廷の織物を司る役所）が、高級な織物を織り出したのが始まりとされている。

しかし、室町時代の応仁の乱の時に京都の町は焼かれ、職人達は丹後など地方に疎開するが、乱が終わると疎開していた職人達が徐々に戻り、町の復興を図るべく、織物の町「西陣」を再構築した。

また、海苔の清水、染めの室町、織物の西陣、それらの使われ方の総合展示場であるお茶屋の祇園として京都の文化は発展し、それぞれ特徴を持った地域の1つとして、織物の町「西陣」は発展した。西陣織りは5段階、20数行程を分業化する事によって、各分野での匠が、お互いに切磋琢磨し技術向上を図る事によって、今日まで途絶える事なく、高い品質と技術が残された。



○敷地  
本計画は京都市上京区の「西陣」地区で行う。「西陣」とは、東は堀川通り、西は西大路通り、南は丸太町通り、北は北大路通りに囲まれた、上京区北西部の地域の通称名である。1200年をこえる歴史を刻む西陣には、数多くの神社、仏閣、史跡などが見られ、貴重な文化財が身近に感じられる地域でもある。また、美しいものに日々触れられるという恵まれた環境は、西陣の人々の感性を磨き、洗練された美意識が織り込まれ、世界に認められる西陣織りの美を生み出した。

○問題点  
和装業界の衰退、和服の需要低下、職人の後継者不足・高齢化などにより、産地の空洞化が起り、歴史的町並み（京町家）や伝統的技術（西陣織り）は、西陣から消えかけている。また、西陣活性化のために、様々な活動や、西陣織り会などの文化施設の設置を試みているが、それらの機能は、町中と上手くリンクされていない。

○提案  
そこで本計画では、2つの『帯への道』を提案する事で、西陣の活性化を図る。  
1.職人を目指す人達への発信の道  
西陣の町中に京町家の改修・保存・活用による職人育成施設「帯の学び舎」を挿入することで、多くの人々に職人としての第一歩を踏み出すことのできる場を提供する。  
→帯の学び舎計画

2.地域や観光客への発信の道  
設定したルートを通る事で、帯が出来上がるまでの工程を順に見て学び、体験する事が出来、西陣織のすばらしさを知ってもらう。  
→ルートの設定



計画プロセス

**西陣マスタープラン**

観光ルート  
主要建造物  
歴史的建造物(町家)  
歴史的建造物(寺・神社)  
小学校

## 帯の学び舎計画

### プログラム

図案・杆づくり・染め・織りの4工程を学ぶ事ができ、即戦力となる若手の育成を目指す。また、帯の学び舎の利用者とコミュニケーションをとる事で、地域に根差した職人の育成を目指す。

○対象者 西陣織に興味があり、卒業後、西陣織の仕事に就きたいと考えている者。

○受講料 受講料の一部は、町家の保存・改修費用とする。

○定員 各工程（図案・杆づくり・染め・織り）5名の計20名

○期間 2年間

○受講日 週5日（土日祝日は体験施設として利用）

○講義内容

目で見て、手を動かし、体で覚えるため、実技中心で講義を進める。

1年次：基本実技

基本的な技術を習得する事ができ、専門的な知識を得る事ができる。

2年次：実用実技

職人の町家で学ぶ「学外実習」により、さらに高度な技術を

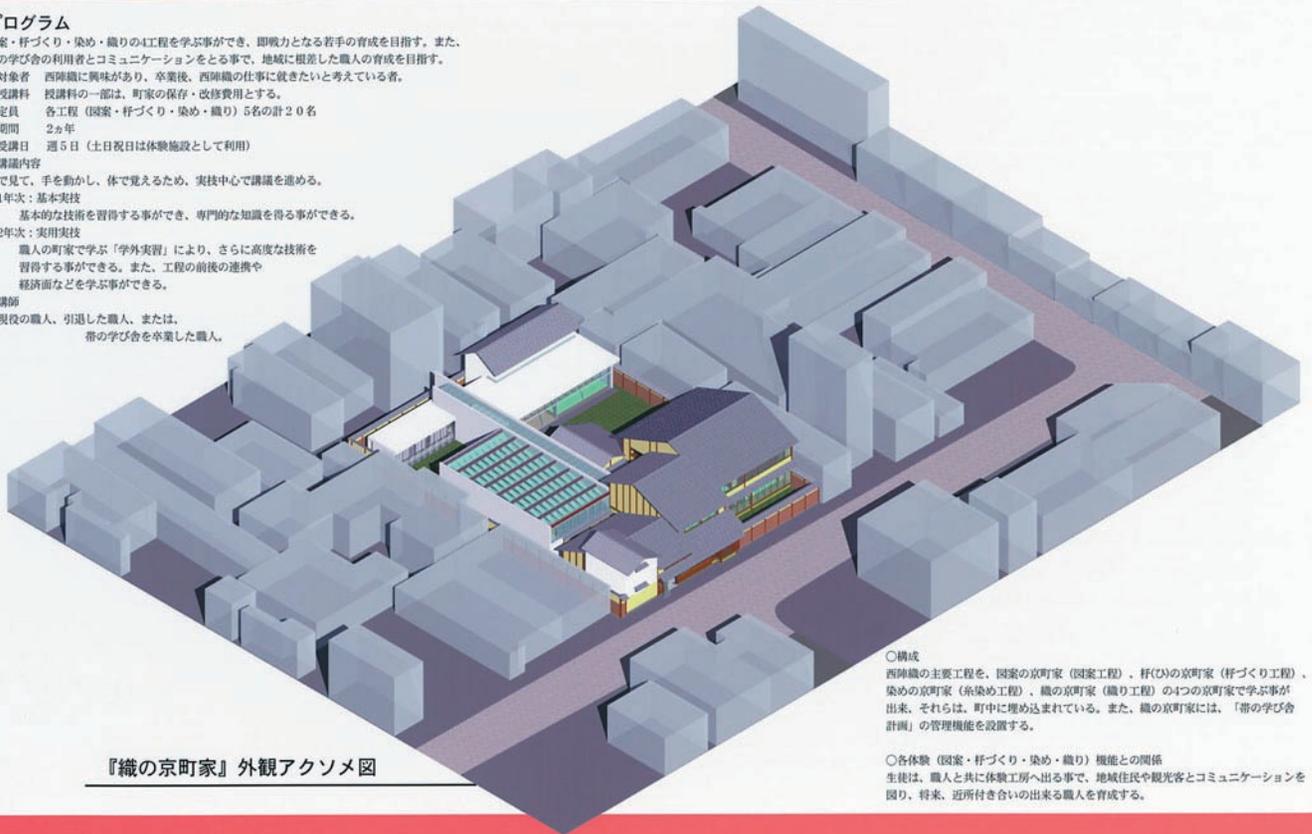
習得する事ができる。また、工程の前後の連携や

経済面などを学ぶ事ができる。

○講師

現役の職人、引退した職人、または、

帯の学び舎を卒業した職人。



『織の京町家』外観アクセメ図

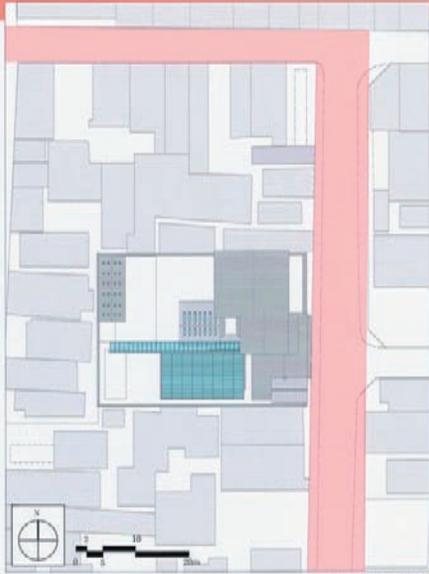
○構成

西陣織の主要工程を、図案の京町家（図案工程）、杆(ひ)の京町家（杆づくり工程）、染めの京町家（染め工程）、織の京町家（織り工程）の4つの京町家で学ぶ事が出来、それらは、町中に埋め込まれている。また、織の京町家には、「帯の学び舎計画」の管理機能を設置する。

○各体験（図案・杆づくり・染め・織り）機能との関係

生徒は、職人と共に体験工房へ出る事で、地域住民や観光客とコミュニケーションを図り、将来、近所付き合いの出来る職人を育成する。

## 織の京町家



配置図 5-1:100

### 町家改修の基本コンセプト

・表に公的な空間（お休み処）、裏に私的な空間（工房）を配置  
→新しい機能も、町家の空間構成に合わせる事で、改修による機能の進化（住居から学習施設）にもスムーズに対応できる。

・表から裏まで貫く通り直に展示空間を配置  
→通りだけでなく、それにつながる部屋も展示空間として考へる事で、家（町家）全体が展示物となる。

織の京町家（おりのきょうまちや）

概要 織物は縦糸の上げ下げと、横糸の行き来によって織り上げられて行く。そこで、縦糸の上げ下げを建物のボリュームやレベル差として、そして、横糸を通り道を通る人の動線として設計する。

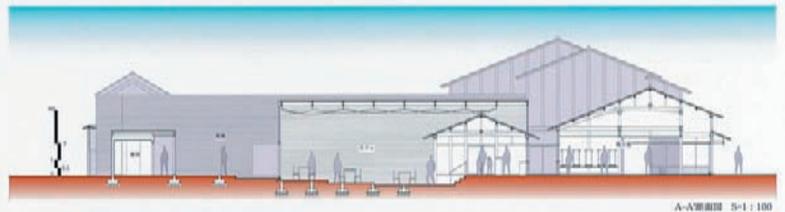
建築年 1914年（大正3年）

歴史 敷地内に蔵を2つ（昔は3つ）も所持する、西陣でも大きな町屋。建設当時は、この地域をまとめる四屋であり、多くの店員を住まわせていた。昭和27年頃、店舗、内店、炊事場、台所を織り工場として改修し、四屋業と織工場の両方の仕事をしていた。しかし、現在は工場を閉め、この家の三分の一は使われていない。

機能 織りの学び舎、展示、織り体験、無料休憩所、カフェ、閲覧室、「帯の学び舎」事務所

面積 敷地面積 1100㎡、建築面積 513.18㎡、延床面積 720.9㎡

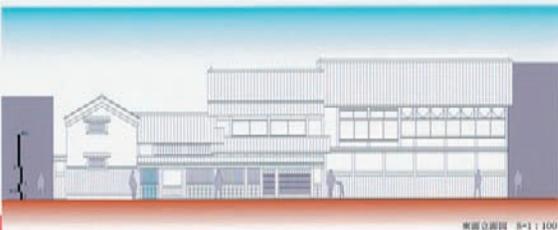
構造 木造2階建、S造1階建



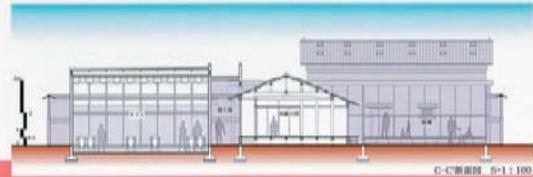
A-A断面図 5-1:100



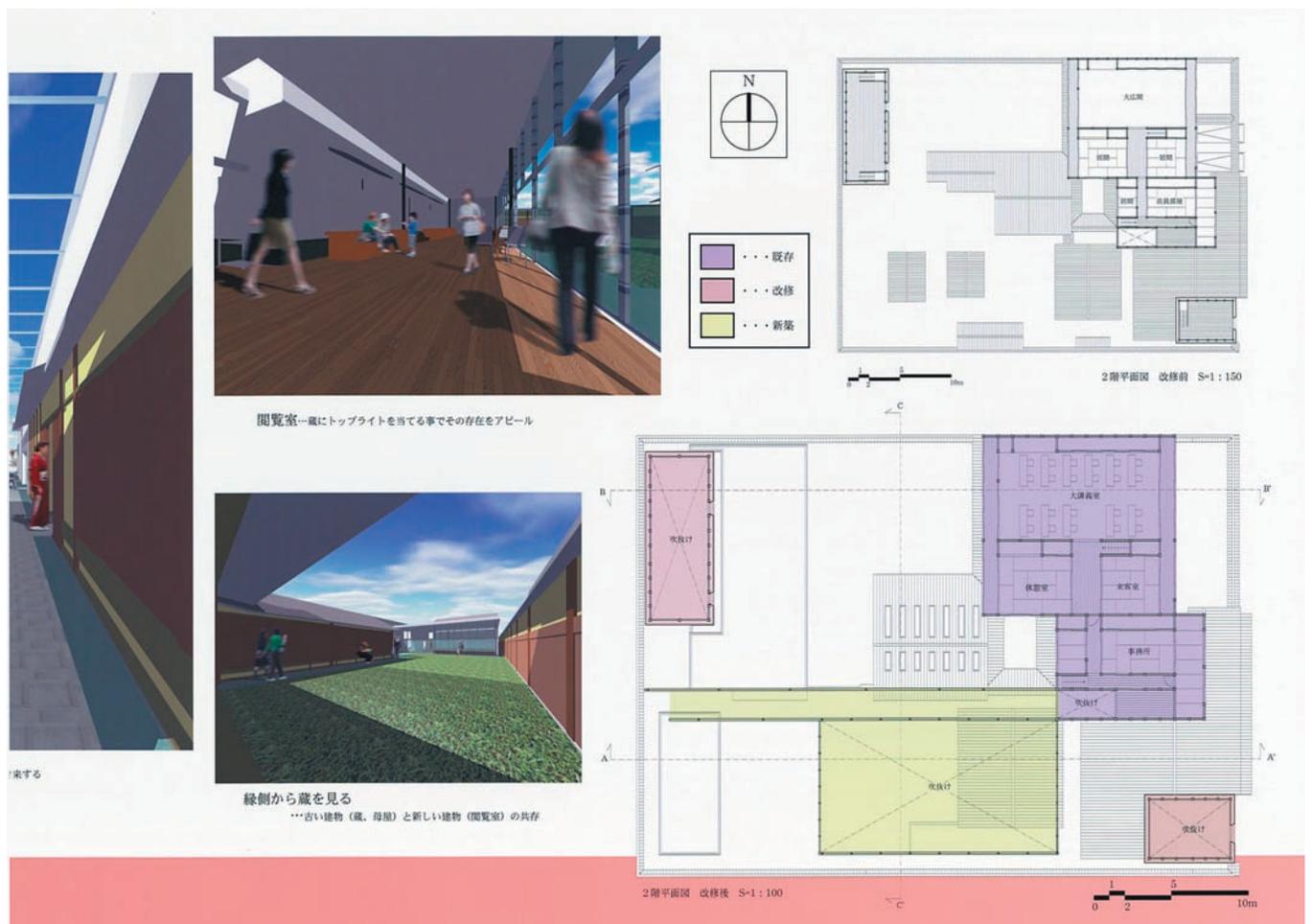
B-B断面図 5-1:100



東面立断面図 5-1:100

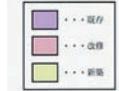
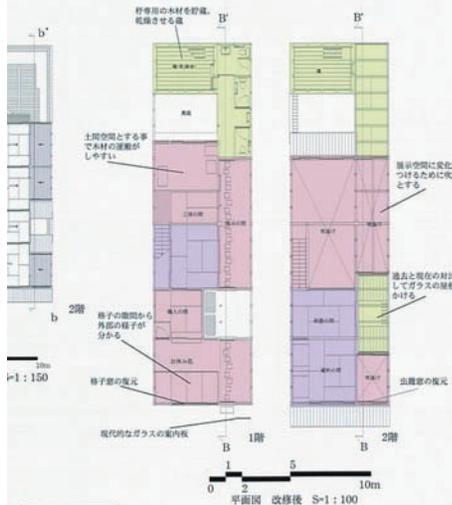


C-C断面図 5-1:100





町家



染めの京町家



**染めの京町家** (そのめきょうまちや)  
 概要 雨宝院(染め物に用いるとよく染まると言われ伝えている、西陣五水「染殿井」がある)に近く、また、織り工程に近い空家の町家を改修。  
 昔ながらの作業は、釜を使って染めるため、座敷を吹き抜けとした。  
 機能 染めの学び舎、展示、染め体験、無料休憩所  
 面積 敷地面積 148.2㎡、建築面積 115㎡、延床面積 128㎡  
 構造 木造2階建、一部S造

